

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	＊	＊	＊
	○	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・ほぼ前年並みの売上だった。資金繰りも予想どおりである。
	○	コンビニ（店長）	単価の動き	・来客数、客単価共に前年を超えている。特に、7月に入って急速に良くなっている。
	○	コンビニ（総務）	販売量の動き	・売上及び来客数は前年比では4月が最も悪く、それと比較すると今月は良くなっている。ただし、来客数は前年割れしており、単価上昇が売上を支えている。
	○	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・今月から少し客が増加し、客単価も上昇してきている。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・夏のボーナス後、前月までに下見をしていた客が戻ってきて購入するケースが多い。
	○	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・夏の猛暑の影響もあり、エアコンは前年比160%、冷蔵庫は120%、洗濯機は130%で推移している。エアコンの新たな省エネ基準の変更に伴い、一部商品に品切れが出てきている。
	○	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	来客数の動き	・夏休みに入り、客足が伸びている。特に商業施設内の店舗は、避暑のために来店している客が多いようにみられるものの、それをきっかけに利用されている。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・2～3か月前と比べてやや良くなっている。客からは、ガソリン代は全国平均より高いが価格が安定した、また夏休みに入ってイベントが始まったことで人出が少し良くなったという話を聞いた。
	○	通信会社（営業部長）	来客数の動き	・前年度は特需があったため、来客数は減少傾向にあったが、今月は前月比100%超となり回復傾向にある。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・猛暑のため、髪を切る客や量を減らす客、シャンプーやトリートメントを頼む客が増加している。
	□	商店街（常務理事）	来客数の動き	・国内外からの多くの観光客で商店街には活気やにぎわいがあり、今後も良くなると期待が持てる。ただし地元客は、急に暑さが厳しくなったことによる外出控えや、物価上昇に対する生活防衛から、消費に慎重な動きがみられる。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・値上げによって客が買い控えをしており、買上点数と来客数が減少している。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・相次ぐ商品の値上げにより、販売点数の減少傾向が続いている。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・競合条件により来客数の増減はあるが、商品の単価上昇が大きく、売上は前年を大きく上回っている状況が続いている。
	□	スーパー（財務担当）	お客様の様子	・買上点数の前年割れは回復し、前年並みでの推移が続いている。
	□	スーパー（人事）	販売量の動き	・暑い日や値上げが続くものの、消費が鈍るような動きは少ない。丑の日も多くの客でにぎわいメリハリのある消費をしている。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数の前年割れが続いている。暑い日が続いたため、飲料品はほぼ前年並みに回復したが、主力商品である主食系は軒並み前年割れしており、厳しい状況である。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・中東情勢が、景気に大きな影響を与えている。
	□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・7月はバーゲンセールで本来は売上が見込めるが、今年は猛暑によって全体的に客の入りが低調である。客単価は相応であるが、商品単価の上昇により期待どおりの売上を確保することは厳しい状況である。
	□	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・人気車種の販売停止に加え、物価高の影響もあり、慎重に検討する客が多く、販売実績は大きく変わっていない。

	□	乗用車販売店（役員）	お客様の様子	・客の購買意欲等に大きな変化はない。
	□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・前年度より来客数、単価共に好調を維持しているが、最近の猛暑により 8～9 月の伸びが弱い。
	□	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・来客数の推移に大きな変化はない。
	□	美容室（経営者）	お客様の様子	・連日の暑さで来客数は少し増加しているようだが、消費は渋る傾向があるようにみられる。
	□	設計事務所（所長）	単価の動き	・個人住宅の着工件数が非常に減少している。下請の倒産が非常に増加している。
	▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・原材料の値上げが販売価格に転嫁されるようになってきた。それを客が敏感に感じ取り、財布のひもが固くなっている。
	▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・猛暑と物価高の影響から、売上は前年より減少傾向にある。
	▲	一般小売店〔文具店〕（経営者）	販売量の動き	・石油を原料とする商品は、依然として欠品状態が続いており、入荷が滞っている。特に、セロハンテープ等の包装資材関連の品物が滞っている。
	▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・猛暑のため来客数が減少している。様々な物の値上げを受けて、購買意欲が低い。値段の安いものから売れている。
	▲	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・夏物商戦が本格化する時期にもかかわらず、猛暑による外出控えや節約志向の強まりから、衣料品や雑貨を中心に伸び悩んでおり、販売量の鈍化を感じている。
	▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・天候不順によって来客数に苦戦した。梅雨明け以降は前年同様高温となり、飲料やアイス等の季節商材が好調に推移し、前年並みの動向となってきた。
	▲	スーパー（統括担当）	販売量の動き	・これまで買上単価は、物価の上昇分は上がっていた。現在は変化がない。
	▲	衣料品専門店（営業責任者）	来客数の動き	・売上は前年比97%程度で推移しているが、客の節約志向は強く、販売点数がなかなか上がらない。また、暑さが厳しく、店前の通行客、来店客共に減少している。
	▲	その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	来客数の動き	・今月後半に盛り返したが、前月に引き続き入館、売上ともに 3 か月前と比べると低調である。
	▲	都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・海外情勢や為替変動、物価上昇等良い要因が少ない。
	▲	旅行代理店（部長）	販売量の動き	・中東情勢の影響を懸念している。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・暑い夏が続いているため、ある程度の乗車はあるが、遍路の仕事がないため、売上が減少している。アプリに対応しているタクシーは、ある程度の乗車があるとみられる。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
企業 動向 関連 (四国)	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・猛暑が続いていることで、各地の小売店から季節商材の発注が増加している。立地的に客が徒歩で訪問する店舗や、客の年齢層が高い小売店は、暑さのため人出が鈍い。全体的には、前年と比べて数%ほどプラスになるとみられる。
	□	食料品製造業（商品統括）	それ以外	・中東情勢や熊本地震による影響で先行きに不透明感がある。
	□	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量は減少しているが、価格転嫁により売上額は現状維持できている。
	□	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の影響による調達の不安から先行受注が多い。年間を通した需要は読めない。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注は一部地域に足踏みがみられる。
	□	輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・大きく変化がみられない。

	□	通信業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ 4 月以降、受注が着実に積み上がっている。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・ 業績が大きく改善したとみられる取引先がない。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	競争相手の様子	・ 再生事業に必要な物が入ってこない。外国製品でなければならず、物価の上昇や人手不足で、企業は大変苦勞している。いろいろ工夫しているが、景気はやや悪い状況である。
	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 公共事業や住宅市場の動きが鈍く、見込み客が減少している。
	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 相変わらず公共事業の発注が少なく、心配している。
	▲	金融業（副支店長）	取引先の様子	・ 資材の不足で、工事が中断若しくは遅延しているところがある。物価の上昇で材料費等が高くなり、住宅建築や収益物件への投資が抑制されている。金利が高くなり、収益物件等の購入も見送られている。
	▲	不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・ 住宅購入を検討する客は予算的に厳しく吟味している。特に自己資金の場合、居住物件ではない事業用案件では、金融機関の了解を得ることが難しい。
	▲	広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・ 原材料価格の上昇は続いているが、報道などに取り上げられることが減り、値上げ交渉が難しい。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
	○	*	*	*
雇用 関連 (四国)	□	人材派遣会社（マネージャー）	求人数の動き	・ 求人数は多く出ているが、景気が良いから採用需要があるというより、人手不足によって採用、派遣が続いている状態とみられる。
	□	人材派遣会社（オフィス責任者）	周辺企業の様子	・ 今後の見通しの不透明さもあり、停滞したり様子見しているところが多い。
	□	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・ 求職者数が増加しないと業界全体が上向かない。
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・ 求人数に大きな変化はみられず、3 か月前と変わらないが、事務関係を中心に減少傾向にある職種も出始めている。
	▲	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・ 製造業、建築会社を始めとした中小企業では、資材や仕入価格、人件費の上昇、人手不足などマイナス要素が多い。売上が上がっているわけではないため、プラス要素が少なく景気は悪化している。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・ 客から売上減少の話を聞くとともに、経費削減で広告費を控えるパターンが何社もあった。
	×	職業安定所（求人開発）	周辺企業の様子	・ 全ての材料のコストが毎月高くなっているため、販売価格に転嫁しないとイケない状況となっている。運送費の上昇もどうしようもないという話が聞かれる。